

研究授業指導支援案

学校名： 和歌山市立城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年11月16日4時間目	
学年： 1学年3組	教科： 理科 授業者 境原 周太郎
単元名： 活きている地球 第2章大地がゆれる	
ICT支援員によるサポート <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
日本にとって身近である火山や地震といった事物・事象について、「地球」のダイナミックな活動と関連させて理解する。また、岩石・地層・地形などの情報から、環境や地質年代の推定をする思考力を養う。	
単元全体の流れ	
<p>「1章 大地が火をふく」では、さまざまな火山活動や火成岩の特徴について扱う。「2章 大地がゆれる」では、地震のゆれの特徴や地震発生のメカニズムなどを学習する。「3章 大地は語る」では、地層を構成する岩石や化石を手がかりに、地層が堆積した時代や当時の環境の推測などを行う。</p> <p>この単元ではできるだけ実物を通して学ぶことが望まれる。しかし、地層などは実際に生徒をその場に連れて行くことはできない。そこで、IWBやTPCなどを活用しながら生徒に資料を提示していきたい。</p>	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
地震について関心をもち、積極的に調べようとする。 [関心・意欲・態度]	

情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input checked="" type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input checked="" type="checkbox"/> 動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input type="checkbox"/> 教員の説明 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
マーナビゲーション コラボノート	
活用した機器	
<input checked="" type="checkbox"/> IWB <input checked="" type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

1. 本時の展開（1/2時間）

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
①地震に関するクイズの答えを考える。	正否にはあまりこだわらせることのないようにする。	IWB, TPC (マーナビゲーション)
②調べるテーマを選ぶ。 4人班を構成し、以下のテーマから各人の担当を決める。 A 地震のゆれ B 震度 C 地震の分布 D 地震による災害	班の中で役割を分担することで、各人が責任をもって取り組むようにする。	
③テーマ別に集まり、コラボノートにまとめる。(1～4班、5～8班で分ける。)	机間指導により各グループの理解度を把握し、用語の理解が不十分のところについてはフォローをする。	TPC(コラボノート)
④各自、元の座席に戻る。自分の調べたことについて班内で発表し合う。 ※本時の指導では③の途中まで行う予定である。		TPC(コラボノート)

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった 数名が一緒に学び合う場面があった
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった 数名が話し合う場面があった
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
 ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

- ・本時の展開①では、マーナビゲーションにより全員参加を保障する。
- ・コラボノートの使用については、本時の展開③では各グループのメンバーが同時に編集することができ、本時の展開④の発表のときにはその作成したものを全員が同時に閲覧することができる。

(2) 活用により期待される効果

- ・生徒の関心意欲の向上
- ・生徒の参加状況、進捗状況の把握。

3. 実践上の課題

- ・TPCの操作性